令和7年度　全国学力･学習状況調査の結果について

４ 月16･17日に ３ 年生が実施した全国学力･学習状況調査ですが、今年度は「国語、数学、理科」と「生活習慣や学習環境等に関する質問調査」を実施しました。本校における結果分析のまとめを作成しましたのでご報告いたします。

比較に当たっては、全国平均正答率と本校の正答率を比較して表現しています。

・「上回っている」（＋3.１ポイント以上）
・「ほぼ同程度であるが、やや上回る」（＋3.０ポイントの範囲内で全国平均をやや上回る）
・「ほぼ同程度」（全国平均と同じ）
・「ほぼ同程度であるが、やや下回る」（－3.０ポイントの範囲内で全国平均をやや下回る）
・「下回っている」（－3.１ポイント以下）

【中学校国語】

本校の概要	課題	改善の方向
【領域】 **□「言葉の特徴や使い方に関する事項」** ・全国平均を下回っている	**●「言葉の特徴や使い方に関する事項」** 文の成分の順序や照応について理解し、適切に使うこと。	○文の成分についての理解を深める指導とともに、理解した内容をすぐに使うことができる活動を充実すること。
□「話すこと・聞くこと」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る	**●「話すこと・聞くこと」** 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること。	○話合い活動に当たって、話題、展開、結びつきを整理するワークシートを用意するなど、工夫して自分の考えをまとめる指導を充実すること。
□「書くこと」 ・全国平均を下回っている。	**●「書くこと」** 文章を整えることや、自分の考えや根拠を明確にして書くこと。	○書くことに対する抵抗感を少しでも軽減できるよう、書く場面を意識的に設定し、自分の考えを言語化できるような授業にする。
□「読むこと」 ・全国平均を下回っている	**●「読むこと」** 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること。	○論説や報道などを読む活動そのものを充実させるとともに、設問の選択肢となっている文の細部の違いに注意して読む指導も取り入れること。

比較に当たっては、全国平均正答率と本校の正答率を比較して表現しています。

・「上回っている」（＋3.1 ポイント以上）
・「ほぼ同程度であるが、やや上回る」（＋3.0 ポイントの範囲内で全国平均をやや上回る）
・「ほぼ同程度」（全国平均と同じ）
・「ほぼ同程度であるが、やや下回る」（－3.0 ポイントの範囲内で全国平均をやや下回る）
・「下回っている」（－3.1 ポイント以下）

【中学校数学】

本校の概要	課題	改善の方向
【領域】 □「数と式」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る	□「数と式」 ・素数の意味を理解すること。	○基本の計算問題だけでなく、語句の意味などを正しく理解できるように、確認の場面を多くする。
□「図形」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る	□「図形」 ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができること。	○証明をする問題に苦手意識が見られる。平面図形の性質の理解を深め、その性質を基にした説明を日頃から確認できるようにする。
□「関数」 ・全国平均を下回っている。	□「関数」 一次関数でｙの増加量を求めたり、グラフから必要な情報を読み取ったりすることができること。	○基礎・基本の問題演習を充実させる。一次関数を表や式、グラフを関連付けて、様々な見方で考察する活動を取り入れる。
□「データの活用」 ・全国平均を下回っている	□「データの活用」 ・相対度数の意味を理解すること。	○異なる度数のデータを比較するために相対度数を用いることを理解し、百分率を含めた割合の理解を深めて、繰り返し練習をする。

比較に当たっては、全国平均正答率と本校の正答率を比較して表現しています。

・「上回っている」（＋3.1 ポイント以上）
・「ほぼ同程度であるが、やや上回る」（＋3.0 ポイントの範囲内で全国平均をやや上回る）
・「ほぼ同程度」（全国平均と同じ）
・「ほぼ同程度であるが、やや下回る」（－3.0 ポイントの範囲内で全国平均をやや下回る）
・「下回っている」（－3.1 ポイント以下）

【中学校理科】

本校の概要	課題	改善の方向
【領域】 □「エネルギー」を柱とする領域 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る。	●仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみること。	○実験ごとに仮説を立て、実験後に振り返ることで、根拠をもって仮説を立て、検証する実験・観察する学習活動の充実。
□「粒子」を柱とする領域 全国平均を下回っている。	●化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみること。	○化学変化に関わる実験を行い、タブレット端末などを利用し、モデル化する学習活動の充実
□「生命」を柱とする領域 全国平均を下回っている。	●スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみること。	○植物の観察を行い、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識と技能を習得し、適切な表現方法を身に付けるためのグループ発表などの学習活動の充実。
□「地球」を柱とする領域 全国平均を下回っている。	●地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみること。	○タブレット端末を活用しながら、地層モデルで表すことで、実際には観察が困難な地層のイメージをつかませる学習活動の充実。

2025 年度　全国学力・学習状況調査　北都中学校の調査結果

生活習慣や学習環境等に関する質問調査について

◎肯定的な回答の割合が特に高かった項目（当てはまる＋どちらかといえば当てはまるの合計）

・朝食を毎日食べていますか。
・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。
・人が困っているときは、進んで助けていますか。
・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
・読書は好きですか。 ※全国平均よりかなり高い
・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

肯定的な回答が高い項目から見える特徴

(1)生活習慣や人間関係が安定している。(思いやり・規範意識・幸福感が高い)
今後の改善や充実の方向➡この安心感を土台に、学びの意欲を伸ばす。

(2)自己肯定感と人間関係の良さ
・教師や仲間との信頼関係が概ね良好です。心理的安全性の高い学級・学校が形成されている。
今後の改善や充実の方向➡今後の学校生活においてさらに充実した活動を工夫する。

(3)学習活動への主体的な関わり
・道徳や総合的な学習において、探究的・対話的な学びが定着していることがうかがえる。
今後の改善や充実の方向➡教科の学習へも主体的に参加する意欲がもてるような学習活動を工夫していく。

◎肯定的な回答の割合が特に低い項目（全国平均との比較）

・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

①3 時間以上（7.3） ②2 時間以上（14.7） ③1 時間以上（25.3）

①②③の合計（47.3）※全国（61.6）

④30 分以上（16.0） ⑤30 分より少ない（19.3） ⑥全くしない（17.3）※全国（7.7）

・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。

①3 時間以上（0.0） ②2 時間以上（0.7） ③1 時間以上（5.3）

①②③の合計（6.0）※全国（13.7）

④30 分以上（14.7） ⑤30 分より少ない（44.7） ⑥全くしない（34.0）

・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

①4時間以上（2.7） ②3時間以上（5.3） ③2時間以上（12.7）

①②③の合計（20.7）※全国（32.5）

④1 時間以上（24.7） ⑤1 時間より少ない（28.0） ⑥全くしない（26.0）※全国（15.4）

・新聞を読んでいますか。（0.7） ※全国（5.7）

肯定的な回答が低い項目から見える課題

（1）家庭学習時間の少なさ

・平日・休日いずれも全国平均を大きく下回っています。

・一方で「全くしない」の割合がかなり高く、自主学習の習慣が十分に確立していないことが明らかです。

今後の改善や充実の方向➡家庭学習に意欲をもって取り組むことができる方策を工夫し、学習習慣をつけるための日常的な取組を充実させる。（家庭学習計画・テスト対策・日常の授業の準備など）

（2）ICTを学習に活用する割合の低さ

・学習目的でＩＣＴ機器を使う割合が全国と比較すると低い。

・「全く使わない」割合が高く、環境の整備や活用指導が課題となっている。

今後の改善や充実の方向➡各教科の授業において積極的な活用の工夫や家庭学習でも活用できるような課題の設定・仕組みを考えていく。